

主の導きに信頼して

創世記二四章28～67節

ラバンとベトエルは答えた。「これは主から出たことですから、私どもにはその良し悪しを言うことはできません。」(50)

アブラハムの僕は井戸で出会ったリベカと共に彼女の家へ向かいました。家族の同意を得るためでした。彼は、リベカとの出会いが決して偶然の出来事ではなく、神の導きによることを家族に語りました。彼は神の導きを確信しつつも、決して自分の考えを相手に押しつけようとはしませんでした。リベカの父たちの意見を尊重し、どう思ふかを尋ねます。その問いかけへの答えが今日の聖句です。僕の思いが相手にも伝わり、家族も「これは主から出たこと」と確信したのです。主の導きである以上、人間に過ぎない自分たちがそれを止めることなどどうして出来ようか、と告げたのです。同じ信仰に立ったりリベカは、一切を主の御手に委ねてすぐさま出発しました。私たちも、最良の導き手である主の御手に全てを委任せしつゝ、人生の旅路を歩む者たちでありたいと願います。